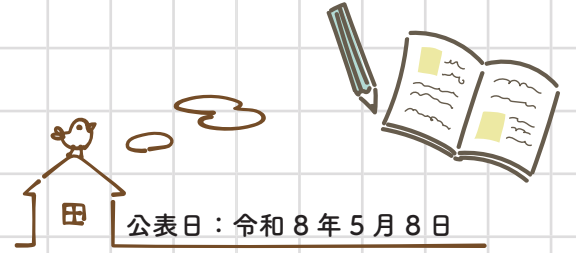


令和7年度

COMPASS 児童発達支援センター大村 事業所における自己評価総括表(公表)



公表日：令和8年5月8日

○事業所名	COMPASS児童発達支援センター大村			
○保護者評価実施期間	令和7年9月10日		～	令和7年9月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28	(回答者数)	20
○従業者評価実施期間	令和7年9月10日		～	令和7年9月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数)	2
○訪問先施設評価実施期間	令和7年9月10日		～	令和7年10月11日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	19	(回答者数)	17
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年10月21日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	(支援の充実) COMPASSでは全国に事業所を展開しており、横のつながりが強く、定期的に全事業所で会議を実施し、情報共有をおこなうことで、適切なアドバイスを受けることができます。	COMPASSでは保育所等訪問支援の意識を高めるため、専門性のある職員の知識と経験を活かし、事例やアプローチなど社内での定期的な勉強会を実施しております。	引き続き事業所間のつながりを大切に、勉強会や情報の共有・交換などをおこない、職員の更なるスキルアップを目指してまいります。
2	児童発達支援と保育所等訪問支援を多機能で運営しており、事業所での様子だけでなく、訪問先施設での様子を見学することで、より深く児童の特性理解につなげることができ、児童発達支援においても日常生活により沿った支援につなげることができます。	事業所内で訪問先施設での児童の様子を共有し、日常生活に活かすことができる支援を、保育所等訪問支援と児童発達支援において並行しておこなえるよう取り組んでおります。また、通所利用がない児童においても担当者会議や報告書での共有をおこない、相互理解に努めております。	今後も児童の成長につなげることができるよう、事業所内での連携を密に図り、複数の職員からの助言やサポートを受けながら支援をおこなってまいります。
3	報告書の作成により、見落としがちな面の振り返りや成長を追いながら支援をおこなうことができいております。また、普段の様子が分からない保護者様にも写真を添えて情報を共有することで、よりイメージにつながり、日頃の児童の様子が伝わりやすくなっております。	保護者様・訪問先施設において中立の立場で支援に入るよう努めております。児童を中心として成長につなげることができるよう、児童目線での提案や支援をおこなっております。	児童の目線を大切に、訪問先施設の理念や保護者様の想いに寄り添いながら、児童が集団の中で有意義に過ごすことができるよう支援に努めてまいります。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問支援に対する知識や経験が浅く、訪問先施設との連携に難しさを感じています。	訪問先施設の理念や方針を尊重するあまり、児童や訪問先の困り感の改善に向けた提案をおこなう際に、助言の内容や支援の実施について判断に迷うことがあります。	訪問先施設の先生方と、対面での会話や連携を深め、相互理解を持って、支援に努めてまいります。
2	お仕事をされている保護者様が多く、対面での共有の機会を設けることに難しさを感じております。	保護者様も勤務等をされているため、営業時間内に対面や電話での連絡が取りにくい状況があります。	ご家庭の状況に応じて、複数のツールを用いての情報共有や状況に応じて、家庭支援や担当者会議、モニタリングを通して保護者様の不安解消や安心感に繋げていくよう努めてまいります。
3	訪問員が1名のため、児童の欠席や訪問員が病欠等になると訪問に入ることや日程の調整に難しさを感じております。	訪問支援員の増員を検討したいと考えていますが、児童発達支援センターの運営もおこなっているため、配置は事業所として検討していく必要を感じております。	訪問先施設と保護者様に予定のご相談をおこないながら日程調整をおこなっております。今後も定期的に訪問をおこなえるよう、各方面と連絡・共有を図りながら調整に努めてまいります。

